



# ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 290  
May  
2017

## トピックス

### メンバー国との防災 協力推進

アルメニアの学校防災  
訓練と客員研究員との  
再会

### Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540  
Fax: 078-262-5546  
editor@adrc.asia  
http://www.adrc.asia

### ●メンバー国との防災協力推進

#### アルメニアの学校防災訓練と客員研究員との再会

アジア防災センター（ADRC）はコミュニティ防災能力の向上を目指し、アジア開発銀行（ADB）による衛星技術とスマートフォン等ICTを用いた防災情報共有システムの開発に協力しています。4月18日（火）にはパイロットプロジェクト実施国の一つであるアルメニアにおいて学校の避難訓練を行いました。地震被害経験の多い日本では学校における地震時の避難に際して「押さない、走らない、喋らない、戻らない」の頭文字をつなげて「おはしも」が合言葉となっており、この4つを順守する訓練が推進されています。

一方、1988年にスピタク地震により大被害の経験があるアルメニアでは地震を感じたら即座に頭を保護しつつ建物の外に避難し、3分以内に避難を完了することが目標となっています。これは、アルメニアでは旧ソ連時代に建設されて耐震性能を持たない建物がそのまま学校として使用されている場合が多く、日本流に地震の揺れが収まるのを待ってから走らずに逃げるのでは倒壊する建物の下敷きになって被害が拡大する恐れがあるからです。

このため、ADRCは学校、病院、役所等の耐震補強や立替を促進することを第一とし、その次に建物内の什器固定や窓ガラス破損対策を進めること、避難経路の複数化と段差解消等の避難経路安全化を進めることを提案しました。

パニックに陥って建物内で人的被害が拡大することを避けつつ、早期避難で子供たちの安全を確保するために、各国の実態に合わせた防災対策について、今後も協力を推進していきます。

また、アルメニアには多くのADRC客員研究員経験者が国家地震防災研究所（NSSP）で勤務しており、彼らと旧交を温め、今後の防災協力の在り方について意見交換を行いました。ADRCはこれからも客員研究員制度を推進し、メンバー国の人材育成に資するとともに人的ネットワークの拡大充実に努めていきます。



頭を守り駆け足で避難



アルメニアの元客員研究員と再会